

My Hobby My Sports!!

趣味を通じた生きがいつくり

「そば打ちで見た名人に憧れて始めた」

—そば打ちを始めたきっかけを教えてください。

平成18年に長野県の副知事になられた板倉敏和さんがそば打ち名人で、板倉さんのそばを打つ姿が素晴らしく、自分もやってみたくという気持ちが強くなったのがきっかけです。その年の大晦日の日に、「自分も家族に美味しいおそばを!!」とワクワクしながら初打ちをしたのですが、全く上手くいかず、結局、ブツブツに切れた「蕎麦粥」になってしまい、待ちくたびれた家族も寝てしまいました…。

—もともとそばは好きだったのですか。

以前はどこで食べても味は一緒だと思っていました。ところが、板倉さんの打ったそばは、それまで味わったことのない美味しさで、以来、そば打ちにハマってしまいました。

—以前から料理をすることはありましたか？

料理はときどき、野菜炒めなど簡単なものを作っていた程度です。

—そば打ちを始めることについて、周囲の反応はいかがでしたか。

家族も「美味しい」と喜んでくれましたし、職場でも「そば打ち」をしてみたいという仲間が増えていきました。その仲間が集まって、長野県庁のサークルとして「そば打ち部」を創設し、メンバーで月1～2回活動しています。

—そば打ちの技術はどこで習得されたのですか。

当時の板倉副知事をはじめ、県内にもたくさんの方々がそば打ち名人がいますので、その方たちに教えてもらいながら覚えました。その後は、自分で道具を買って自宅で練習しました。



そば打ちを始めるきっかけを与えてくれた板倉さん(前列右から4人目)と共に(田中さんは前列右端)

田中 達也

長野県環境部自然保護課
自然保護係 課長補佐

【たなか・たつや】昭和42年生まれ。平成元年長野県入庁。健康福祉部、総務部を経て、平成27年より環境部。



長野県内で開催された「そば打ち団体戦」にも出場

—そば打ちで難しいところは？

最初の工程に「水回し」があります。そば粉に水を入れて混ぜる作業なのですが、短時間に均等に混ぜることが一番難しく、これが上手いかないときは、結局「そば」もつながらませんし、食感もボソボソになってしまいます。

—そば打ちで、こだわっていることは？

経験も浅く技術もありませんので、こだわりを持つ程にはなっていませんが、食べてくれる人の喜ぶ顔を勝手に思いながら打っています。

—そば打ちを始めて、何が変わりましたか。

人とのつながりが増えたことが一番のプラスです。県庁内だけでなく、8年程前から「敬老の日」に福祉施設での「そば打ち」活動が続いているのですが、毎年、喜んでいただけることが自分のエネルギーにもなっています。

—趣味としてそば打ちを継続できている要因は何だとお考えですか。

「そば」には日本人(特に信州人)にとって何かホッと不思議な魅力があると感じています。自分の趣味が、結果的に「多くの人に喜んでもらえる」と実感できていることが、長く続けられている要因だと思います。

—そば打ちを始めて、一番よかったことは？

人との出会いが増えたことです。そば打ちをしていなければ出会えなかったような方たちと知り合えたことは、大きなプラスになっています。

—そば打ちとは今後、どのように関わっていきたいですか。

福祉施設での慰問や市民教室など、できる限り多くの人と出会えるような「そば打ち」活動を、ずっと続けていきたいと思っています。

毎年敬老の日には訪問している福祉施設にて